

昨年12月2日より1月20日まで現地に滞在し、学校があるブラクールに5日間、アトモロックに1週間滞在することができましたので、主に学校生活の報告をしたいと思います。

## ブラクール

昨年12月16日から20日まで5日間滞在させて頂きました。

現地協力NGOであるPFPの事務所があるスララという町をオートバイで10時に出て、途中食堂でお昼を食べ、1時半ごろブラクールの集落の中心に着きました。

集落の中心から学校まで歩いて10分ほどですが、粘土土でぬかるんでいてすべりやすくなっていました。平らな広い部分はこちらしかなかったと、集落から少し離れた場所に学校ができました。1999年と2000年にFOTの会員の寄付で、小学校の校舎2棟、ハイスクールの校舎1棟(各学年1教室)が作られました。それに2階に5部屋あるスタッフハウス。スクールキッチンと呼ばれる、屋根だけの、給食用の調理をする建物があります。その屋根のコゴン草は半分以上無く、明らかに修理が必要でした。

生徒数は小学生115名、ハイスクール45名です。現在8名の教師のうち5名がFOTのあしなが奨学金を受け、カレッジ卒業後、教師の資格を得て働いています。皆、奨学金で勉強する機会が与えられ、教師として同じ民族の子ども達を育てる仕事につけたことに感謝していました。

現在、会員の寄付によるヤギ育成事業、アグロフォレストリー農場事業があります。ヤギ育成事業は、生徒たちが当番制で世話をしている、子ヤギが5匹生まれました。繁殖させて売るだけが目的でなく、ヤギの糞は良い肥料になるのでヤギ育成事業を選んだとのこと。アグロフォレストリー農場事業は等高線上にフラミンジャの種を蒔き、果樹の苗を植え終わり、教師が1haずつ責任をもって担当しています。フラミンジャは根が張るので、土止めによく、4,50センチに育つと、刈って緑肥として使います。農場と言ってもかなりの斜面です。5年後には果物がなり、住民組織の組合員が消費する以上の量が生産できるようになったら、販売し、住民組織の収入にします。

10kmほどの距離にある集落に住む子どもたちの為に、学校のそばに寮が2つあり、それぞれ十数名が住んでいます。小学1年から親と離れて住むのですから大変なことだと思います。

5日間の滞在中お天気だったのは2日だけでした。到着した翌日は明け方から激しい雨で、生徒の3分の1しか登校できませんでした。川を渡って来る生徒達は危険で登校できなかったそうです。登校する子の多くは傘も無く、ずぶぬれになって来ます。着替えがあるわけでもなく、よく風邪を引かないものだと感心してしまいます。時間になったから授業を始めるのではなく、生徒が集まったら授業を始めるという感じですが、

雨の中やって来た生徒達のためには、早く授業を始めてあげる方が良いのではとってしまいます。ハイスクールでは生徒数が少なかったので4学年一緒の授業をしていました。

その翌日はクリスマスパーティで学期最後の日でした。朝早くから音がするので何かと思ったら、先生と生徒の何人かがパーティの料理の準備を始めていました。小雨が降っていて、スタッフハウスの軒下で火をおこしていたのです。メニューは、マカロニサラダとスパゲッティミートソースです。お湯をたくさんわかす必要があったわけです。クリスマスパーティは、校庭で一同が会し、挨拶の後、各教室へ入りました。低学年は母親も参加し、幼い子がいる母親は幼い子も連れてきていました。お料理を食べ、プレゼントをもらって、閉会となり、皆喜んで学校を後にしていました。

記念植樹をさせてもらいました。「地獄のにおい、天国の味」と言われるドリアン(アトモロック)の苗木を3本、植えてきました。7年後には実がついているとのこと。収穫できるのを楽しみにしています。



植樹後、防護柵を作ってくれる生徒たち。金槌がなく石で釘を打っている。